

県央史談会 史跡めぐり ―飯山観音御開帳―

令和2年11月3日(火・祝)

○観音堂 飯山寺と號し、觀應元年の文書に「長谷の観音と唱ふ嘉吉二年の鑑録に飯山寺と號し、此寺號見ゆ、長谷の観音と唱ふ山新長谷寺と彫る、本尊十一面観音五分、は闍浮檀金の像なり、神龜年間堂地より西方四町程子豐澤と云所の清泉中より出現すと云、今行基作同像八寸五寸の腹範りとす、又同作の像を置、此像の腹範とせしと云、云々、神龜二年行基開闢行基再興の靈場とあり、の地にして大同二年弘法密宗の道場とす、永延二年坂東順詣の札所第六番となる、建久中源頼朝秋田城介義景をして造營を加へしめしと云、以上棟起に載る所なり、坂東觀音靈場記に「大觀音を信ずる事久し、或時旅僧來て修夜法話の次、我輩佛像は利州長谷寺の像なり、行基大師の彫刻なり」とて附屬す、據て地を讀み、彼僧地鎮の法を修し堂宇を經營す、落慶供養の後、彼僧去所を知らず、爰中に一箇の五銖を殘せりと云、此說當寺には傳へず、但長谷の唱は是に依て起りしにや、

嘉吉二年(一四四二) 銅鐘

池の間陰刻第一区

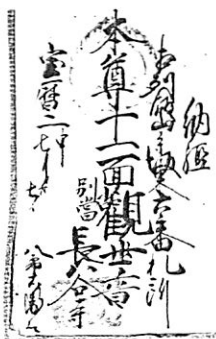
相州愛甲郡毛利庄飯山新長谷寺
題額自在觀現之勝地行基再興
之靈場也嘉吉二年壬戌之春忽罹
雷火之災俱為灰燼焉未幾再新堂
宇食因號令幽顯啓啓尊送真先於
鐘是以清淨金剛寺先住持開勝
衆緣以謀鑄造而福業傾誠庶結
緣者頗多免氏速成厥功矣故遣使
來求銘福山西來小比丘釋心林未
免爲之銘曰

池の間陰刻第二区

飯山所鎮 長谷雄榮
再新堂宇 重立雄程
化緣普應 洪鐘復成
或昏或曉 以扣以鳴
林聚谷響 遐邇歡情
圓通門啓 煩惱夢驚
迴慈悲力 救苦衆生
應々佛事 刹々音聲
聞修既了 覺性自明
孰不發省 觸處傾誠
覺氏有據 功烈永膺
象教彌盛 國家太平

池の間陰刻第三区

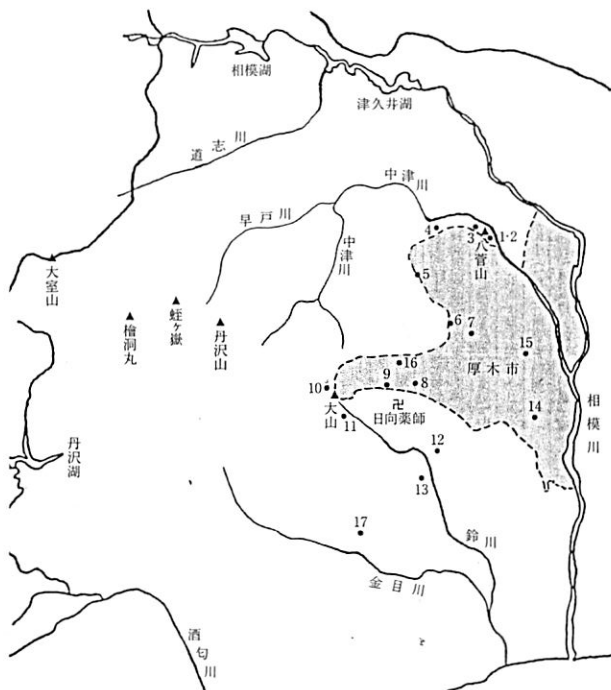
嘉吉貳年壬戌卯月五日不
大工大和權守清原國光
本寺前住小比丘釋開勝誌焉
勸進小比丘釋全球
在寺小比丘釋繼三畫之



太陽シリーズ『観音の道4』

『新編相模国風土記稿』

東丹沢山地・山麓地域経塚一覽



『厚木市史 中世通史編』

番号	遺跡名等	概要	確認経塚数 (推定)
17	弘法山経塚	十七基の経塚が発見され、発掘調査が実施された表Ⅲ-19	20数基
16	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(図Ⅲ-97)	1
15	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	「熊子七口」が存在したと伝え、和鏡一、壺が出土した(図Ⅲ-98)	7
14	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑大壺と和鏡一面が発見された(図Ⅲ-99)	1
13	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	山頂の石函には華嚴経が遺されていると伝え、(「新編相模国風土記稿」)	1
12	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	白山山頂付近からは常滑三筋壺二個、和鏡ほかが出土した(図Ⅲ-85、図Ⅲ-86)	1
11	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
10	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
9	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
8	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
7	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
6	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
5	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
4	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
3	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
2	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1
1	七沢鐘ヶ嶽山頂付近	常滑三筋壺一個が発見された(市史・中世資料編)	1

鎌倉 長谷寺鐘 文永元年(一二六四)

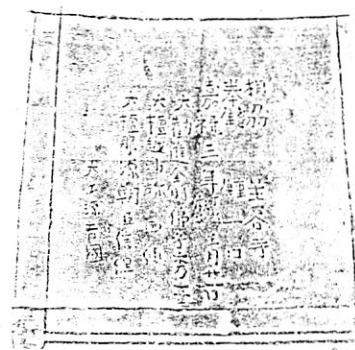
(第一区) 新長谷寺

椎鐘威力 十方施主
消除不祥 消除災難
心中祈願 決定成就
檀波羅密 具足円満
文永元年 子七月十五日
当寺住持真光
勸進沙門浄仏
大工物部季重

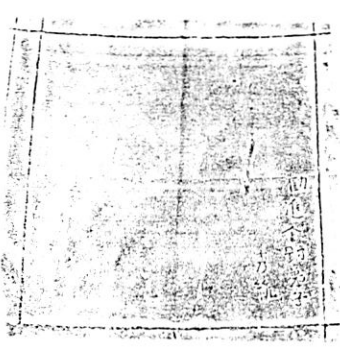
『鎌倉市史 考古編』

星谷寺鐘銘 拓本 早稲田大学會津八一記念博物館

嘉祿三年(一二二七)



相州 星谷寺
奉請 鐘一口
嘉祿三年 丁亥 正月
大勸進金剛仏子秀
大檀那源朝臣信綱
大檀那源朝臣信綱
大工部三司



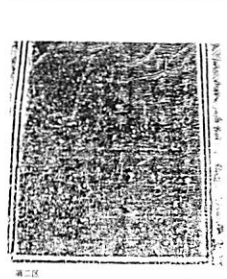
勸進金剛弟子
秀範

国分尼寺鐘銘 拓本 早稲田大学會津八一記念博物館

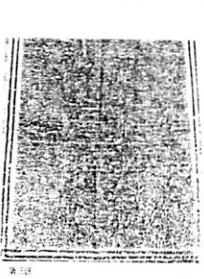
正応五年(一二九二)

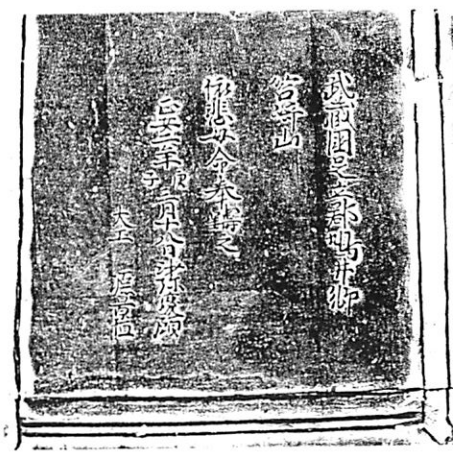


池の間第一区
大日本国相州国分尼寺鐘
大檀那源季頼
夫以当寺者 維聖武皇帝之御願
医王善逝之聖跡也 鐘者亦位
住持之莊嚴 魔界降伏之形声
爰造韻絶而茲久 樓台荒而閣
棟之毀之、凡所祈者 天下靜
豐饒矣、所仰者 御靈繁昌、子
(第二区)
泰平朝、乃至法界平等、
利益無辺歟而已、
正応五年 癸丑 十月六日
平氏女
源氏女
源季久



(第三区)
一聴鐘声 当願衆生
脱三界苦 得証菩提
大工大和權守物部国光

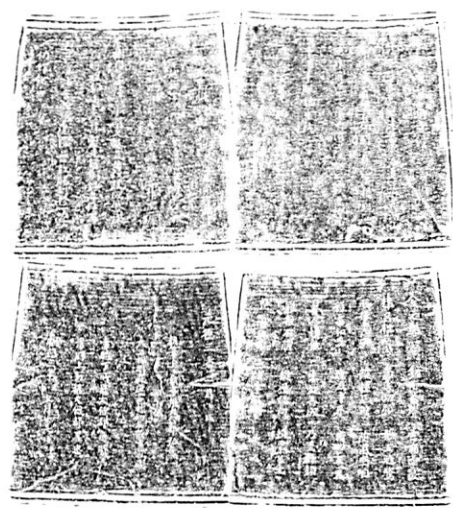




武蔵国足立郡鳩井郷
宮崎山
依悲母命奉請之
正安二年三月十八日 沙弥慶順
大工 源景恒

『相模川流域のみほとけ』

元徳三年（一一三二）



『相模川流域のみほとけ』

（池の間 第一区）

走湯山東明寺鐘銘并序
南部州羣原跑津嶋、東海道豆州走湯山
有神地之廟壇、有仏閣之梵宇、權現之
施外用也、一隣一隅薩埵之彰内証也、
千手千眼觀音之尊創
応神天皇 聖代靈鐘出海思濟生之
根元

（第二区）

仁徳天皇明時、瑞湯現流凡厥奇特、
暹、彈越鎮座以降、運轉幾曆數週、
感応是日新而、文保舊年玄律十一月、
樹提示薩摩橋欠基、是以使跋威風之殊
功、特採經書之旧製、先鑄銅鐘傳備器、
宣聖法音於無辺際、普致轉利於一切衆、
仍作銘曰、

（第三区）

金之為器 鐘有梵音 宮商遇變
律呂俱并 鳥氏功顯 鴈王聽聲
形撰異歡 韻撞巨鯨 隨風幽咽
待霜和鳴 達三千界 告四五更
普告諸衆 悉地各成 乃至群煩
罪根不萌 縱歷億劫 縱累多生
梵響無斷 法字無傾

（第四区）

執筆上々執事權大僧都弘意
大工相州森庄一色村和泉權守常盛
當時下所權大僧都兼賢
當時上所權大僧都善忠
明徳三年甲午十一月廿六日之

天文七年（一五三八）



太陽シリーズ『観音の道1』

鎌倉とみられるが近世の補修が多く不詳



平安時代 十二世紀



『相模川流域のみほとけ』



『厚木市史 中世資料編』

